

令和6年度 秋田県健康づくり審議会 がん対策分科会

がん登録部会 議事概要

- 1 日 時 令和7年2月27日（木） 17時00分～18時00分
- 2 場 所 Web 会議（Zoom）
- 3 委員の出席
出席委員数：7
欠席委員数：0
- 4 オブザーバー（検診機関）の出席：3
- 5 議 事
 - （1）部会長選出
 - （2）報告事項
 - ①秋田県がん登録資料利用の申請状況について
 - ②全国がん登録に係る指定診療所について
 - ③都道府県がん登録室における安全管理措置に係る外部監査について
 - ④全国がん登録データベースの復旧状況について
 - （3）協議事項
令和元年秋田県がん登録の集計報告について
 - （4）その他

議 事 概 要

（開会宣言、健康づくり推進課長のあいさつに引き続き、秋田県健康づくり推進条例の規定に基づき議事（１）部会長選出が行われ、戸堀文雄委員が部会長に選出された。また、部会長は柴田浩行委員を部会長職務代理者に指名した。

（議事（２）報告事項①秋田県がん登録資料利用の申請状況について）

- 事 務 局 （資料１に基づき説明）
- 部 会 長 がん登録の利用について、県から周知していただきたい。

（議事（２）報告事項②全国がん登録に係る指定診療所について）

- 事 務 局 （資料２に基づき説明）
- 部 会 長 例年、この指定医療機関についてはがん検診の二次検査実施医療機関に指定のお願いをしている。大幅に増えることはなかなか難しいと思われるが、今後も継続してお願いしていくことが必要である。確認だが、二次検査実施医療機関でもまだがん登録に協力いただけていないところはあるか。
- 事 務 局 まだ協力をいただけていない医療機関がある。
- 部 会 長 今後も県から案内を継続してほしい。
- 事 務 局 承知した。

（議事（２）報告事項③都道府県がん登録室における安全管理措置に係る外部監査について）

- 事 務 局 （資料３に基づき説明）
- 柴田委員 今回は５年ぶりの監査ということだが、この指摘事項の量は、平均点ぐらいなのか。それとも、重点改善項目と要改善項目が合計で１７件ほどあるため、指摘が多かったということになるのか。特に、この重点改善項目の２番は廃棄に関するものであり、対応策は出しているようだが、ハードディスク等は再生すれば消去したデータを閲覧できてしまうということも最近話題になっているため、その部分についての徹底を求められているということなのか。しっかりと廃棄されたということについて、業者からどのような形で担保を取ればよいのかが求められていると思うが、この場合は業者を活用してはいけないという意味になるのか。特に、個人情報保護という面から、紙やＰＣはどのように廃棄するのが望ましいのか。

○ 事務局 最初に、今回の指摘事項の量が、例えば他県と比べてどのような分量なのかということについてだが、他県の状況は把握しかねているため、明確な回答は難しい。ただし、今回の監査で重点改善項目 2 件、要改善項目 15 件の指摘があったが、非常に大きな欠陥があるということではないため、適宜対応を進めていたところである。次に、紙資料や P C の廃棄についてだが、現在、秋田県総合保健事業団では、業者に委託して廃棄を行っているのではなく、当事業団の内部にて、紙資料であれば、国と国立がん研究センターの示すマニュアルにおいて定められた条件を満たすシュレッダーによる廃棄を行っており、P C やメディアについては、国と国立がん研究センターが定めるマニュアルを基に作成しているがん登録に関する業務について定める業務手順書に添って、当事業団の内部においてたたき割るなど、物理的にデータ等も含め復旧ができない方法で廃棄している。

○ 柴田委員 そうなると、国のハードルが上がったということになるのか。

○ 事務局 国の監査主体からは、少しでも気になる点があれば指摘がされているという認識である。

○ 部会長 5 年前に同様の監査があったが、やはり細かいところを確認しているという印象がある。指摘事項についても、5 年前と方法が変わった部分があり、その部分について記載等が十分にされていない場合、指摘が行われていると感じている。委託を受けている立場として、改善策に則って業務に取り組んでいきたい。

(議事(2) 報告事項④全国がん登録データベースの復旧状況について)

○ 事務局 (資料 4 に基づき説明し、委員からの意見等はなかった。)

(議事(3) 協議事項 令和元年秋田県がん登録の集計報告について)

○ 部会長 この報告書は、医療機関から提出いただいたがん情報をまとめた資料である。秋田県はやはり大腸などの罹患率が非常に多いことがよくわかると思われる。今後もこの報告書は継続して作成していきたいと思っている。

○ 柴田委員 大変膨大なデータをまとめていただき感謝する。この報告書のまとめ方のフォーマットは、いわゆるがん登録に基づくものというイメージなのか。つまり、ステージ等といった形式では、がん登録においてはまとめづらいものになっているのではないかと思っている。例えば、所属リンパ節転移と隣接臓器浸潤といった記載(16 ページ)があるが、その部分が臨床で用いるステージと少し乖離がある。将来的にステージング等でこのようなデータが使用できればよいと思うが、がん登録におけるまとめ方においてそのような方向性に変わっていくという動きは将来的にあるか。

- 部 会 長 柴田委員がおっしゃるとおり、この報告書はステージ別という形式でまとめられてはいない。全国がん登録は、幅広くがんの情報を集めて比較等を行っていくようなものとなっている。将来的に変わっていく可能性はあるが、今の時点では難しいと思われる。
- 柴田委員 2点目になるが、会議で患者からがん登録に関するデータを掲載してほしいといった要望があった場合にはどのような対応をすればよいかという質問を受けたことがある。このがん登録は法律で定められているため、通常の臨床研究とは異なり、オプトアウトのようなものはないと思っているが、このような認識でよいか。
- 部 会 長 がん登録は法律に基づいて行われているため、個人の希望によって掲載しないといった対応はない。そのため、個人情報管理が非常に重要視され、先ほどの監査でもあったように、厳密に管理していくものとなっている。

(議事(4) その他の事項について)

- 事 務 局 (参考資料に基づき説明し、委員からの意見等はなかった。)

以上